



問 一月に元気な男の子が生まれました。父親として、毎日に成長する姿に、「この子は特別な能力を持って生まれた気がします。学習塾、英会話、スポーツ教室……何を教えたから伸びるのかと夢が広がります。」

答 どの親も、我が子が将来オリンピックで活躍するような選手に、ノーベル賞を受賞するような科学者にと願う早期教育を施す事を考えます。

あなたの家庭に新しい命を与えてくださった神様は、その子が社会を改革するようなスケールの大きい人生を送る十分な計画を持っておられます。ですから親の願いを超えて、神様に我が子の将来を委ねるべきです。

聖書の物語を紹介しましょう。イスラエルのエルカナという人と妻ハンナとの間には十年もの間子どもが与えられませんでした。ハンナは神様に「子どもを授けてください。もし子どもが生まれたらその子は神様に献げます。」と日夜涙の祈りを続けていました。やがてハンナに男の子が生まれ「サムエル(神に聴く者の意)」と名付けました。そして乳離れした時、息

子を神様に仕えさせるため祭司エリ(今で言えば牧師)のもとに連れて行きました。

その後も続く母ハンナの熱い祈りに導き、祭司エリの教導のもと神様の声を直接聴くことが出来るほどに霊性が高められ立派な青年になったのです。やがて彼はイスラエルの信仰の指導者となって宗教改革を行い、国の危機を何度も救いました。

聖書が示す神様と御子イエス・キリストを信じて生きる家庭の子ども誕生その生涯は、神様の雄大なご計画と御心の実現に用いられるのです。

「あなたは……幼い頃から聖書に親しんできたことを知っています。」(IIテモテ3・15)

(児玉 博之)

親と子のしあわせ

383

四月一日から何日も何日も、地震が熊本・大分県地方を襲いました。私が住む佐賀県も熊本に近く、震度5強でした。二回とも夜で、特に十六日深夜一時半の地震の際には、本当に恐怖を感じ祈りました。そして「恐れるな。わたしはあなたとともにいる。たじろぐな。わたしがあなたの神だから。」(イザヤ41・10)との聖書の言葉に励まされました。我が家は、本が数冊落ちたくらいで大きな被害はありませんでしたが、熊本城や阿蘇大橋は大きく壊れ崩れました。

知り合いのNさんのことをお話しします。彼女は、熊本にある大学の二年生です。お母様から、「地域の人たちと避難しましたが、急いでいたので携帯電話を忘れたそうです。でも避難できました。お祈りください」と連絡をいただきました。

「よかった」と安心していたら、その後の情報で、そこは阿蘇大橋が崩壊して孤立した状態の場所であり、そこに500名以上の人がいることがわかりました。

またNさんの心が不安定な状態だとお母様から伺いました。ご両親は、何とかして迎えに行けないかと色々考え、策を練り心配し、祈っておられました。

結局Nさんと一緒にいた方が途中まで車で送って来てくださり、こちらから車で迎えに行かれたご両親と落ち合いです。Nさんは無事佐賀の実家に帰ることができました。そのことをお父様が涙ながらに報告してくださいました。

震災の時、我が家の長女は学校の研修で佐賀の唐津にいました。熊本からは離れていますから大丈夫だとは分かっていたのですが、それでも心配で祈り続けました。まして大きな被害が出た地域にいる人々のことを、ご家族やお知り合いはどんなに心配されたことでしょうか。(この号が出版される六月には地震の終息が見られることを祈りつつ書いています)親は、子どものことを何歳になっても心配し、病気になるれば代わってあげたい、困っていたら助けたいと思ひ、時には怒り過ぎ、心配し過ぎ、親の思いを押しつけたりして失敗しますが、でも愛しすぎるという事はないと思っています。

(相原 幸紀美)



*この「よろこびの泉」は、統一協会、エホバの証人、モルモン教のものではありません。これらの問題でお困りの方は、上記の教会にご連絡ください。

671
2016年
6月発行

よろこびの泉

わたし(イエス・キリスト)が与える水を飲む者はだれでも、決して渴くことはありません。私が与える水は、その人のうちで泉となり、永遠のいのちへの水がわき出ます。

新約聖書 ヨハネ4:14



car keys

父

水野源三

六十に近い父が
自動車教習所に
通いだした

免許証を貰ったが
一度も運転しないで
天に召されてしまった

日記には
免許証を取って
源三を乗せたいと
書いてあった

(一九七九年)

瞬きの詩人 水野源三第三詩集「今あるは神の恵み」より

筆者は小学4年の時脳性麻痺になり全身の自由が奪われました。そのためご両親は、祖先のたたり、家の方角がよくない名前が悪いと悩みましたが、源三さんがクリスチャンになると同時にすべての迷いが晴れ、両親もクリスチャンになりました。

発行所 奈良県生駒市門前町七-四〇 日本ミッション
〒630-0266 電話〇七四三(七三)一七五四 振替口座〇〇九三〇二六六四二番

発行人 ファアベイ・D
編集人 日本ミッション編集部

印刷所 埼玉県比企郡鳩山町熊井一七〇
〒350-0303 新生宣教師印刷部
電話〇四九(二九六)〇七二七

一年分 送料共 九〇〇円
定価 一部 一八円

迷走からの脱出〜人生180度の転換〜

宮城県 川口 真

牧師の息子として生まれた私でしたが、教会とサッカーを天秤にかけるような少年期を送り、高校卒業後は、社会生活に翻弄され、ストレスがたまる一方。そんな中「人生が180度変えられることが最大の奇跡」と聞いて……。



▲山形県、銀山温泉。妻 亮子、長男 十和(とわ)と一緒に

私は名古屋で、1982年5月クリスマスチャン・ホーム(父は牧師)の4人兄弟の3番目として誕生しました。母の胎に存在するときから教会へ行っていたことになりません。

でも、小学生から高校生までは大好きなサッカーに没頭する生活で、信仰のことと言えば、いつもサッカーと教会とを天秤にかけ、優先順位をサッカーにおいていました。中学生の時は教会に住んでいることが学校でからかわれたことがあり、そのことで家が嫌いになった事もありました。しかし高校の時はそれが逆転して周りに珍しがられ、関心を集め、高尚な気分になった自分がいました。このように青年期までの信仰生活は、その時々々の環境次第という中途半端な状態でした。

ストレスの中で

高校卒業後は建築会社に就職。初年度は現場で楽しく大工の仕事を教えてもらいました。しかし、その会社の経営状況が徐々に悪化していき、職人、設計士が次々と退社し、私はいつの間にか事務職へと異動させられ、全く経験のない設計から資材発注と配送、現場管理などを担当へと一変しました。

結果、多忙な日々が続く、仕事は溜まっていく一方徹夜の日が増え、現実社会に生きる厳しさを身をもって体験し、苦しみと不安で、生きる力が段々と無くなっていく経験をしました。この状況を打開しようと、自分の考えや行動、また力でも何とかならないと思いましたがそうはいかず、頑張れば頑張るほど頭は混乱し、疲れが溜まってストレスが増え、身体のいろいろなところに痛みを感じるようになりました。

人に助けを求めても一時的な助けは得られるものの、根本的な解決には至りません。この原因はどこから来るのだろうかと考えました。この会社なのか？ 自分に経験や能力がないためか？ それとも日本の社会が悪いのか。果てには日本人の大多数が信仰している様に見える仏教や神道、または他の新興宗教などに助けがあるのか？と、様々な原因を追究するように自問自答していました。そして結局のところ、その原因は自分自身の信仰にあるのだとわかりました。当時の私は、自分が何を信じているのかはつきりしない信仰で、職場の人間の行動を見ては失望し、自分の信仰を疑い、更に神さまの存在までも疑うようになっていました。

そんな時、半信半疑ながら小さい時から教えられる、心に蒔かれていた聖書のことは祈りの習慣を思い出し、神さまに助けを求め始めたのです。

最大の奇跡は？

ある日の礼拝メッセージで、神さまは奇跡をなさる方だと聞きました。「奇跡は聖書の中にたくさん記されている。しかし最大の奇跡は人の人生が180度変えられることだ」と、ある例話を使って語られたのです。その時私は、今のこの苦しい

状況を180度変えて下さる最大の奇跡を私にも与えて下さいと、神さまに強く懇願しました。その次の週の礼拝メッセージの中では「福音を、イエス様を、ただ信じるだけで良い。それだけで十分なのです」と語られました。この単純な言葉は私に過去を思い起させてくれました。

小さい時から数え切れないほど何回も聞いてきた言葉だったので、今回ばかりは特別に聞こえ、聖書に書かれていることを思い出し「なぜなら、もしあなたの口でイエスを主と告白し、あなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせてくださったと信じるなら、あなたは救われるからです。人は心に信じて義と認められ、口で告白して救われるのです。聖書はこう言っています。『彼に信頼する者は、失望させられることがない。』」(ローマ10:9-11)

イエスさまが救い主として十字架で死なれ、葬られ、三日目によみがえられた事を信じて受け入れ、信仰告白をした11歳の時に、実はすでに人生最大の奇跡が私には与えられていたのだと気づいたのです。不思議なことに環境は変わらずともこの時を境にして自分の抱えていた仕事の重圧から解放され、心の不安が平安へと変えられ、涙を流しながら神さまの偉大さに賛美と感謝をささげていました。

福音船、ドゥロス号に乗る

その後、私はイエスさまのために人生をささげたいと思うようになり、神さまにこれからの方向性を祈りました。しばらくすると知人からキリスト教系の宣教団体OM(オペレーション・モービルライゼイション)の持つ福音船ドゥロス号を紹介してもらい、世界を航海して神に仕えるという場

所が与えられる事になりました。ドゥロス号に在籍していた2年半は言語や文化の壁に苦勞し、与えられている責任に対して自分の無力さを見せつけられる連続で落胆する日々も多くありました。しかし、訓練を通して訓練され、それによって新たに知る神さまの愛の大きさがどれほどかを教えていただくこともできました。

二つの悲しみを超えて

帰国後はサッカーのコーチングの仕事等をしながら父の牧する教会での奉仕や名古屋での帰国者クリスチャンの集まり(通称インスパ)の活動にも関わらせていただいたのです。そんな中二つの大きな出来事がありました。一つは私の愛する母の突然の手術中の死です。母は若い頃、くも膜下出血を患いながらも4人の子供を育て、亡くなる前には60年の人生を振り返り、困難を覚えながらも生かされてきた人生はただ感謝と恵みしかないと言ってくれました。そしてもう一つは2011年3月11日に起こっ

た東日本大震災でした。大震災に驚愕していた私はテレビやニュースを通して、世界中から日本に祈りと支援が注がれていることを知り、自分には何が出来るのかを祈りました。そして震災一か月後から日本国際飢餓対策機構(JIFH)の下、長期ボランティアとして復興支援活動に携わり、インスパの時と共に活動をし、JIFHのスタッフでもあった現在の妻と結婚し宮城県に移住しました。

その後、津波被害を受けた木工作業場で、現地の職人の方々と共に働く機会が与えられ、またその仕事の傍ら夫婦で英会話教室を開き、地元の子供たちに楽しく英語を教えています。人生に素晴らしき事をして下さり私たち夫婦をこの地に導かれた神さまが、この地で人々と関わり、神の恵みの証人として生かして下さる事を願っています。

「わがたましいよ、主をほめたたえよ。主の良くしてくださいましたことを何一つ忘れるな。」(詩篇103:2)



神の国もふくらんでいるんだよ!

ほいこらる 絵本 脚 であら